

記入日 2014年 1月 14日

1. 概要

実践団体名	気仙沼市立階上中学校		
連絡先	0226-27-2304		
プランタイトル	「自助・公助」		
プランの対象者※1	中学生	対象とする 災害種別※2	津波

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

- 「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習
→東日本大震災による被災の反省から、正しい知識や十分な備え、日頃の訓練の充実を図る。
- 「自助」を基盤とした「公助」への取り組み
→公的機関の役割やNPO等の活動内容などを学ぶと共に、地域の復興に向けて考えを深める。

【プランの概要】

- NPOの代表者による防災講演会
- 仮設住宅居住者との合同避難訓練
- 学年毎防災体験活動
- 消防署員を講師とした「公助」学習会
- 地区毎の一次避難訓練と小中合同の児童・生徒引き渡し訓練
- 避難所設営訓練
- ショート訓練
- 防災学習発表会

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- 公的機関やNPO等の活動内容を学ぶことで、災害時に「公的機関の支援が来るまでに中学生できること」を考え、様々な訓練の充実を図る。
- 地区毎の一次避難訓練や小中合同の児童・生徒引き渡し訓練、防災学習発表会などとおして、「震災を風化させてはいけない」というメッセージを地域に送り、各家庭や地域住民の防災意識の高揚を図る。

2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	○職員へ本年度の防災学習計画の提示		
5 月	○仮設住宅居住者との合同避難訓練計画の提示		○NPOの代表者による防災講演会
6 月			○仮設住宅居住者との合同避難訓練
7 月			
8 月	○学年毎防災体験活動計画等の提示	○第1回階上地区防災教育推進委員会 (今年度の活動について等)	
9 月	○「公助」学習会の計画の提示	○第2回階上地区防災教育推進委員会 (地区毎の一次避難訓練と小中合同の児童・生徒引き渡し訓練計画等)	○防災学習ガイダンス ○学年毎防災体験活動
10 月	○地区毎の一次避難訓練と小中合同の児童・生徒引き渡し訓練, 避難所設営訓練計画等の提示		○消防署員を講師とした「公助」学習会
11 月	○防災学習発表会計画等の提示		○地区毎の一次避難訓練と小中合同の児童・生徒引き渡し訓練 ○避難所設営訓練 ○ショート訓練
12 月			○防災学習発表会
1 月			
2 月		○第3回階上地区防災教育推進委員会 (今年度の活動の反省・来年度の活動予定について等)	
3 月			○本年度の防災学習のまとめ

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： ①】※3

タイトル	防災講演会
実施月日（曜日）	平成25年5月16日（木）
実施場所	気仙沼市立階上中学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：上田和孝 氏，鹿田光子 氏 所属・役職等：NPO法人「シーズ・アジア」
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	・災害発生後の公的機関やNPOの役割を理解させ、考えを深めさせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	防災講話 ・NPOとボランティアについて ・ミャンマーでの防災活動の事例について ・防災のためにできることについて など
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・講師：NPO法人「シーズ・アジア」上田和孝 氏，鹿田光子 氏 ・道具：パソコン，プロジェクター，スクリーン，筆記用具など
参加人数	115人（中学生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・災害発生後の公的機関やNPOの役割を理解し，ボランティアの意義や大切さについて，考えを深めることができた。 【課題】 ・災害発生後，公的な機関の支援が来るまでに中学生にできることを考え，訓練などで実践する必要がある。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ②】※3

タイトル	仮設住宅居住者との合同避難訓練
実施月日（曜日）	平成25年6月12日（水）
実施場所	気仙沼市立階上中学校（テニスコート～校舎裏高台）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：高橋 優 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震発生により、敏速・沈着・協力的な態度で行動することの必要性について体験をとおして理解させる。 ・大津波を想定し、二次避難の判断・行動を実践させる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	14：15 緊急地震速報→テニスコートへ避難，人員確認（中学生，仮設住宅居住者等） 14：27 大津波警報発表→校舎裏高台へ二次避難（中学生，仮設住宅居住者等） 14：38 校舎裏高台（二次避難場所）へ避難完了，人員確認 14：50 全体指導・講評
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	緊急地震速報，ハンドマイク，救護旗，救護セットなど
参加人数	約150人（中学生，仮設住宅居住者と地域住民）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・緊急地震速報を活用して，地震発生後に生徒が自分の身を守る避難行動をとることができた。 ・中学生が高齢者を気遣いながら二次避難するなど，助け合いながら行動する姿勢が見られた。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・休日や夜間の避難訓練や要救護者への対応をしっかりと考える必要がある。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ③】※3

タイトル	学年毎防災体験活動（1年生：防災講話）
実施月日（曜日）	平成25年9月20日（金）
実施場所	気仙沼市立階上中学校 美術室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：狩野秀之 先生 所属・役職等：宮城県教育庁生涯学習課主幹
所要時間または「コマ数×単位時間」	5コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・津波発生メカニズムや津波発生時の避難の仕方などについて、理解を深めさせる。 ・今後の総合防災訓練に向けて、主体的に取り組む態度を養わせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・「津波のメカニズム」についての講話（3コマ） ・まとめ活動（2コマ）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：宮城県教育庁生涯学習課主幹 狩野秀之 先生 ・道具：パソコン、プロジェクター、スクリーン、筆記用具など
参加人数	33人（中学1年生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波発生メカニズムや発生に備えた対応などについて、正しい知識を得ることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話で学んだ津波発生時の避難方法などを、訓練をとおして周知徹底していく必要がある。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ④】※3

タイトル	学年毎防災体験活動（2年生：救急救命・応急手当講習会）
実施月日（曜日）	平成25年9月20日（金）
実施場所	気仙沼市立階上中学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：吉田 茂 氏（他5名） 所属・役職等：気仙沼消防署 消防司令補
所要時間または「コマ数×単位時間」	5コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	技術を身につける
達成目標	・災害発生時後の人命救助に備え、応急手当法や心肺蘇生法、AEDの使い方などを学ばせ、その技能を身に付けさせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	救急救命・応急手当講習会（4コマ） ・応急手当法 ・心肺蘇生法（含AEDの使い方） まとめ活動（1コマ）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・講師：気仙沼消防署職員（6名） ・道具：ハンカチ、タオル、AED、筆記用具など
参加人数	42人（中学2年生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・災害発生時後の人命救助に備え、応急手当法や心肺蘇生法、AEDの使い方などを学び、その技能を身に付けることができた。 【課題】 ・継続的な学習による知識、技能の定着が必要である。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑤】※3

タイトル	学年毎防災体験活動（3年生：小学生への防災啓発活動）
実施月日（曜日）	平成25年9月20日（金）
実施場所	気仙沼市立階上小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：戸羽康幸 所属・役職等：教諭（防災担当）
所要時間または「コマ数×単位時間」	5コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	・防災カルタ遊びや紙芝居などをおして、小学生に防災や減災についての正しい知識や理解を深めさせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	9月12日（木）事前準備（1コマ） 9月20日（金）小学生への防災啓発活動（4コマ） ・防災カルタ遊び、紙芝居、塗り絵、クイズ ・まとめ活動
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	オリジナル防災カルタ、紙芝居など
参加人数	約190人（中学3年生、階上小1年～4年）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・防災カルタ遊びや紙芝居などをおして、小学生に防災や減災についての正しい知識や理解を深めることができた。 【課題】 ・防災について小学生に分かりやすい活動を今後も様々な形で考え、実践していく必要がある。
成果物	・オリジナル防災カルタ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑥】※3

タイトル	「公助」学習会
実施月日（曜日）	平成25年10月17日（木）
実施場所	気仙沼市立階上中学校 体育館・プールなど
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏名：伊藤大志氏（他19名） 所属・役職等：気仙沼消防署 消防司令長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に関する知識を高める
達成目標	・災害発生後の公的機関の役割を講話や体験活動をとおして理解させる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・「公助」についての講話 ・救命処置講習 ・はしご車搭乗体験 ・水難救助訓練見学 ・まとめ活動
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・講師：気仙沼消防職員（20名）
参加人数	115人（中学生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・災害発生後の公的機関の役割を講話や体験活動をとおして理解することができた。 【課題】 ・学んだことを実践する訓練の場を設定し、継続して学習していく必要がある。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑦】※3

タイトル	地区毎の一次避難訓練と小中合同引き渡し訓練
実施月日（曜日）	平成25年11月2日（土）
実施場所	気仙沼市階上地区全域 気仙沼市立階上中学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：階上小学校 三浦博之, 階上中学校 高橋優 所属・役職等：防災主幹, 防災主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	6コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	・地区毎の一次避難訓練や児童・生徒引き渡し訓練をとおして、避難体制等を確認させる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	9：00 大地震発生（防災無線） 9：05 児童・生徒は地区毎の避難場所へ移動 9：30 地区毎の活動（避難者リストの作成，炊き出し訓練，防災講話など） 11：30 防災に関する授業（小学生：防災カルタづくりや校内の危険箇所の確認など，中学生：防災マップの作成） 13：00 中学校の体育館へ移動 13：20 午前中の活動の振り返り・意見交換 13：55 メール配信後，引き渡し訓練開始 15：15 終了 15：40 反省会（小中の教職員）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材：各自治会の会長ほか ・道具：コンパクトメガホン，非常持ち出し袋，避難者カード，引き渡しカード，筆記用具など
参加人数	約600人（中学生，階上地区住民）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・地区全体の防災意識を高め，避難体制を確認することができた。特に中学生が避難者カードをまとめ，避難者の掌握に進んで取り組むことができた。 【課題】 ・参加率の低い地区があり，被災の記憶が風化しつつあることなどから風化防止の対策について考える必要がある。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑧】※3

タイトル	避難所設営訓練
実施月日（曜日）	平成25年11月8日（金）
実施場所	気仙沼市立階上中学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：高橋 優 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	4コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	・避難所開設の初期対応に必要な事柄や役割などについて考えさせ、ロールプレイをとおして実践し、理解を深めさせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	11月6日（水）設営訓練ガイダンス・事前準備（1コマ） 11月7日（木）事前準備（1コマ） 11月8日（金）避難所設営訓練（2コマ） 【役割分担】 生徒会総務：避難所本部、運営委員会：受付・誘導 生活委員会：地区割り作業、厚生委員会：救護スペース作成 緑化委員会：避難スペース作成、厚生委員会：掲示板作成・記録 図書委員会：要救護者スペース作成、福祉委員会：地区住民役 防災委員会：避難者リスト一覧表の作成など
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	コンパクトメガホン、マジックペン、段ボール、畳、毛布、新聞紙、救護セット、卓球台、長机、パイプ椅子、簡易ベッド、車イスなど
参加人数	115人（中学生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・シナリオのない中で、生徒会総務を中心に次々に与えられる条件に臨機応変に対応しながら、避難所開設に必要な事柄や役割に取り組むことができた。 【課題】 ・体育館が多くの避難者で混雑した状況で、長机などの準備の仕方やコンパクトメガホンの使い方など、実際の場面に応じた工夫が必要である。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑨】※3

タイトル	ショート訓練（～3月まで）
実施月日（曜日）	11月～3月（不定期）
実施場所	気仙沼市立階上中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：高橋 優 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	約5分
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他学校内での時間
活動目的※5	災害対応能力の育成
達成目標	・地震発生時または緊急地震速報が流れた時に、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」を頭に入れ自分の身を守る対応をとらせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・授業時間や休み時間、清掃時間や部活動時間などに予告せず緊急地震速報を流す。生徒は、その場の状況に応じて身の安全を確保する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	緊急地震速報，コンパクトメガホンなど
参加人数	115人（中学生）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・地震発生時または緊急地震速報が流れた時に、その場に応じて「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」を頭に入れ、自分の身を守る対応をとることができるようになった。 【課題】 ・清掃時や部活動時など、発生時間帯や訓練時期を変えながら実施することでマンネリ化の防止が必要である。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑩】※3

タイトル	防災学習発表会
実施月日（曜日）	平成25年12月3日（火）
実施場所	気仙沼市立階上中学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：高橋 優 所属・役職等：教諭（防災主任）
所要時間または「コマ数×単位時間」	10コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	・学んできた防災学習のまとめ、発表をとおして自分たち自身をはじめ地域や家庭の防災意識の高揚を図らせる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	11月19日（火）：ガイダンス・各担当者による準備①（2コマ） ・学年毎防災体験活動セッション ・「公助」学習会セッション ・地区毎の避難訓練セッション ・避難所設営訓練セッション 11月21日（木）：各担当者による準備②（2コマ） 11月26日（火）：各担当者による準備③（2コマ） 12月 2日（月）：防災学習発表会リハーサル（2コマ） 12月 3日（火）：防災学習発表会（2コマ）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	プレゼンテーションソフト、プロジェクター、紙芝居や畳などの小道具（実演による発表用）
参加人数	約200人（中学生、階上地区防災教育推進委員会、階上中学校PTAなど）
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・学んできた防災学習のまとめ、発表をとおして生徒の防災意識を高めることができた。 【課題】 ・保護者や階上地区防災教育推進委員会だけでなく、多くの地域住民に参加してもらうことで、更なる防災意識の高揚と風化防止につなげていく必要がある。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○東日本大震災による被災の反省から、「自助」を基盤とした防災学習、「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習の必要性に気づき、防災教育計画を立てた。</p> <p>○「R→P→D→C→A」を軸に学校と地域が一緒になって防災に取り組み、活動を継続することができれば、</p> <p>①夜間や休日など、いつ、どこで発生するか分からない災害時にもスムーズな連携活動ができる。</p> <p>②子どもから高齢者までの異年齢集団で防災体験活動（訓練）を推進することで、生徒にも地域住民としての自覚や連帯感が生まれ、互いに気にかけてたり助け合ったりする集団ができる。</p> <p>③学校を含めた地域全体で継続的な防災活動に取り組むことで地域全体の防災意識を高揚させることだけでなく、震災体験の風化防止にもつなげることができる。</p> <p style="text-align: right;">と考えた。</p> <p>○災害時に公的機関の支援が来るまでに「中学生としてできることは何か」という視点のもとで、防災教育の計画を立てた。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○今年度、小・中学校が連携して防災啓発活動や地区毎の一次避難訓練、合同引き渡し訓練などを行ったが、両校の防災担当者がその実施に向けて何度も打合せを重ね、それらを他の教職員や生徒・保護者に周知する必要があった。</p> <p>○階上地区防災教育推進委員会を開き、地域と共に防災について考え、避難訓練等を企画・実践することで、学校と地域が一体となって防災に取り組み、活動することができた。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○避難所設営訓練の際に、既存の生徒会組織を活用し緊急時の役割を明確にしたことで、生徒が率先して行動するとともに、その場に応じた対応をすることができた。</p> <p>○地域住民との共通理解を図るために、階上地区防災教育推進委員会を開き、自治会長などに集まっていただき、本校の防災教育の主旨や計画の理解に努めた。</p> <p>○多くの関係機関と連携を密に図ることで訓練がより一層充実するため、今後も関係機関との連絡や調整を行う必要がある。</p> <p>○避難訓練を土曜日に実施するなどして地域の方の参加を促したが、参加率の低い地区があることや仕事の関係で不参加となった方が多かったことなどについて、今後も各自治会との連携を密にしながら工夫していく必要がある。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	○階上小学校 ○階上中学校同窓会	○学年毎防災体験活動 (3年生:小学生への防 災啓発活動) ○地区毎の一次避難訓 練と小中合同の児童・生 徒引き渡し訓練
保護者・ PTAの組織	○階上中学校PTA ○階上小学校PTA	○地区毎の一次避難訓 練と小中合同の児童・生 徒引き渡し訓練 ○防災学習発表会
地域組織	○階上地区防災教育推進委員会 ○階上地区自治会長連絡協議会 ○階上地区振興協議会 ○階上公民館 ○階上駐在所 ○階上防犯協会 ○階上地区婦人防火クラブ ○階上地区ボランティアクラブ ○気仙沼消防団第7分団 ○気仙沼消防後援会第7支部	○地区毎の一次避難訓 練と小中合同の児童・生 徒引き渡し訓練 ○防災学習発表会
国・地方公共団体・ 公共施設	○宮城県教育庁生涯学習課 ○気仙沼市役所総務部危機管理課 ○気仙沼消防署	○学年毎防災体験活動 (1年生:防災講話, 2 年生:救急救命・応急手 当講習会) ○消防署員を講師とし た「公助」学習会 ○地区毎の一次避難訓 練と小中合同の児童・生 徒引き渡し訓練 ○防災学習発表会
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	○NPO法人「シーズ・アジア」	○NPOの代表者によ る防災講演会
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>○今年度実施した防災学習をとおして、地震・津波についての正しい知識や災害時における応急手当の仕方などの技能を身に付けることができた。さらに、今年度のテーマである「自助・公助」のもと、「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習を実践することができたと考える。消防署員を講師とした公助学習会やNPOの代表者による講演会をとおして災害時の公的機関の役割などについて学ぶことで、公的な支援が来るまでに中学生ができることについて考えることができた。また、そのことを避難所設営訓練などで生かすことができた。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>○今年度の本校の防災学習においては、所期の目的を達成できたと感じている。引き続き「自助」を基盤とし、「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習の実施や地域との密接な連携が大切である。また、被災地においても避難訓練の参加率が低い地区があるなど防災に対する意識の低下が感じられるので、災害の風化防止にも努めなければならない。そして、将来に向けて災害に強い地域社会を再構築するために、復興教育にも力を入れていく必要があると考える。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>○本校の防災学習は「私たちは未来の防災戦士」をテーマに平成17年度から始まった。学校を起点とした地域の防災意識の更なる高揚や将来の防災リーダーとしての資質や能力の育成等をねらいとしている。</p> <p>震災の反省を踏まえ、「自助」を基盤に「自助」「共助」「公助」をテーマとした防災学習を1年ごとに実施し、3年間で1つのサイクルにすると共に、「知る・備える・行動する」を視点とした実効性のある防災学習に現在取り組んでいる。</p> <p>次年度のテーマは「自助」である。「自分の身を守るために自分たちでできること」を中心に、災害についての正しい知識や理解、災害発生時・後に必要とされる判断力・技能を身に付けるための活動を行っていく予定である。具体的には、フィールドワークを行い、自分たちが住んでいる地域の避難経路や高台などを再確認することや非常持ち出し袋の重要性について確認する活動を計画している。また、様々な状況下で地域と連携した避難訓練などを行うと共に、地域の復興に向けたまちづくりがどうのようであればよいか、また、自分たちがどう関わっていくかについて考えさせていく予定である。</p>



7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。



防災講演会



仮設住宅居住者との合同避難訓練



学年毎防災体験活動

(自由記述: 1/3)



「公助」学習会



地区毎の一次避難訓練と小中合同引き渡し訓練



避難所設営訓練

(自由記述: 2/3)



緊急地震速報を活用したショート訓練



防災学習発表会



防災教育推進委員会

(自由記述: 3/3)